

マリア様に導かれて

Sr.ルイサ・ゴリ, マリア布教修道女会

数年前に、イエスの母であるマリアをこよなく愛するひとりの女性に出会いました。この方は日本文学の大学教授でした。彼女がカトリック教会に入った歩みについて紹介してみます。

第二次世界大戦末期、彼女の夫は結核に冒されました。状況が悪化していることに気づいた夫は、洗礼を受けたいのでカトリックの司祭を探してきてほしいと妻に頼みました。妻は夫の願いを叶えるために全力を尽くしましたが、代わりに英国教会の牧師を見つけました。夫と妻、そしてサミュエルと名付けられた5歳の息子は一緒に洗礼を受けました。夫は妻にこんな言葉を残しました。「イエスの母であるマリアについての知識を深めることができなかったことが残念です。」妻はこの言葉をいつも心に留めていました。年月は流れ、仕事と息子の教育に時間がかかっていたそんなある日、彼女は偶然、カトリック学校の子どもたちが唱えるAve Mariaを耳にしました。それは彼女にとってユニークで忘れられない体験でした。マリアよ、罪びとのために、今も、死を迎える時にもお祈りください。彼女はそのような祈りを聞いたことがなかったのです。死の間際にマリア様が私たちにそばにいてくださるように祈ることは、最も大切なことだからです。そのとき、わたしたちが孤独で、だれかに愛され、守られ、保護されていると感じたいからです。そのような祈りが子供たちによって唱えられていたという事実、彼女は驚き、また深く感動しました。こうして、彼女はカトリック教会の門をたたいたのです。

マリアの執り成しを通して、主が私たちに与えて下さる「しるし」に注意しながら、深く信仰と安心感と平安へと導かれますように。

- 女の子たちは、もろもろ準備の為、朝5時過ぎには起床(早い...)
みんなで朝の祈りを行い、その後、朝食
8時から9時半まで1日目の振り返りと分かち合い
掃除、片付けなどを行った後、再び「平和記念公園」へ移動
「平和記念公園」で亡くなられた方々へ全員で祈りを捧げました
車で「呉」にある「大和ミュージアム」へ移動し昼食
「大和ミュージアム」と「てつのかじら館」を見学(海上自衛隊施設)
大阪へ向け出発し、全員無事に帰宅致しました



織町教会の聖堂にて
(普段は撮影が出来ません)



朝の分かち合い
(みんな真剣に平和について考えました)

ベトナム出身の参加者が2名おり、タム君が通訳してくれました。ほんとに感謝です。久しぶりに行った泊まりのイベントは、互いを深める良い機会となりました。

youth岸和田 平和体験学習in広島 感想文

作成者 しち タム

広島での平和体験学習を通して、僕は戦争の悲惨さと平和の大切さについて、今までよりも深く考えることが出来ました。1日目は広島で名物のお好み焼きを食べたあと、平和記念公園に行きました。最初に見たのは「原爆の子の像」で、その周りにはたくさんの折り鶴が納められていました。これらの折り鶴に、多くの人々の平和への願いや思いが込められていると感じました。

次に原爆ドームを見たとき、爆心地から600メートルも離れているのに、当時はとても頑丈な建物ですら壊されてしまったことを驚きました。その悲惨な光景が今も残っていることに悲しくなりました。ドームを背景に写真を撮った後、平和の鐘や平和の時計塔を見ました。

その後、原爆資料館に行き、当時の人々がどれだけ苦しんだかを目の当たりにしました。焼け焦げた衣服や川に飛び込んで逃げようとする人々の姿、影だけを残して消えた人々の跡を見ると、言葉では表現できないほどの悲惨さを感じ、心が重くなりました。

その後、世界平和記念聖堂に戻り、教会の和洋折衷の建築や、海外から送られてきたパイプオルガンや鐘、扉など、さまざまな国々が送ってくれた物を見て、平和への願いはどの国も同じなんだな感じました。教会のデザインには仏教や日本の神社の要素が取り入れられていて、宗教や文化を超えた平和の象徴としての存在を感じました。

2日目は、朝にパンを食べたあと、分かち合いの時間があり、みんなで1日目の体験を共有しました。なぜ戦争は繰り返されるのか、戦争を防ぐために私たちにできることは何かについて語り合いました。僕はまだ14歳で、通訳をする中で難しい単語もありましたが、何とかできて、安心しました。

そして、世界平和記念聖堂を出て、呉市に向かいました。昼食には大和ミュージアム横のショッピングモールで呉冷麺を食べ、少し辛かったけど、とてもおいしかったです。午後は大和ミュージアムに行き、戦艦大和の巨大な模型や、その歴史について学びました。零戦や魚雷の展示もあり、戦争が持つ破壊力の凄まじさを改めて感じました。その次に、近くにある「てつのかじら館」では潜水艦の内部を見学し、潜望鏡を覗くと実際に外の景色が見れて、すごいなと思いました。

この2日間の体験を通して、僕は戦争の無意味さと悲惨さを改めて認識し、平和を守るためには国際的な協力が大事なんだと強く実感しました。世界平和記念聖堂を見たように、世界中のひとりが平和を願い、平和の実現には一人一人が責任を持って行動するのが大事だと思いました。平和は日々の小さな行動から始まると思いました。僕もそのために何が出来るかを考え、日々の生活の中で実践していきたいと思っています。この体験は、僕にとって一生忘れることのできない大切な体験となりました。



2024年「世界宣教の日」
教皇メッセージ要約 第3回
「出て、だれでも婚宴に連れてきなさい」
(マタイ22・9参照)



「だれでも」キリストの弟子たちの世界への宣教と、ひたすらシノドス的で宣教的な教会

最後となる三つ目の考察は、王の招待を受けた人々たちについてです。「だれでも」――。「この『だれでも』こそが宣教の核心です。だれ一人、例外はいません。だれでもです。ですからわたしたちの宣教はことごとく、すべての人をご自分へと引き寄せるために、キリストのみ心から生じるものなのです(教皇フランシスコ「教皇庁宣教事業総会参加者へのあいさつ(2023年6月3日)」。分断や紛争にさいなまれた世界の中で、今日もなお、キリストの福音は柔和で強い声となり、人々が出会い、互いを兄弟姉妹として認め、多様性の調和を喜びよう招いています。神がお望みになるのは、「すべての人々が救われて真理を知るようになること」(一テモテ2・4)です。ですから、宣教活動においてわたしたちは、すべての人に福音を告げるために遣わされた者であることを決して忘れてはなりません。

すべての人への宣教には、皆で取り組む必要があります。ですから、福音に仕える、ひたすらシノドス的で宣教的な教会を自指す道を歩み続けなければなりません。シノダリティはそれ自体宣教的であり、逆もまたしかりで、宣教は必ずシノドス的です。だからこそ今日、緊密な宣教協力は、より緊急かつ必須なものとなっています。

youth岸和田 平和体験学習 in広島

筆者 堀川康弘

9/14(土)~9/15(日)の2日間にかけて、岸和田地区の青少年活動を行っている「youth岸和田」で広島に行き、平和体験学習を行ってまいりました。

和泉教会からは、タム君、堀川莉音さん、リーダーとして堀川康弘の計3名が参加しました。簡単な報告と、子供たちが感じたままの感想文を掲載いたしますので、皆様、ご一読いただければ幸いです。

- 9月14日
・早朝に出発し、正午過ぎに、広島のカテドラルである織町(のほりちょう)教会へ到着
・昼食は、近くの「みっちゃん」で広島のお好み焼きに舌鼓を打つ
・昼食後、のほりちょう教会を出発し、徒歩で約25分「平和記念公園」へ
・原爆ドームや記念碑などを回りながら、平和記念資料館を見学
・織町教会へ戻り、ガイドさんの案内で織町教会の見学
・小聖堂にて、織町教会の皆さんと夜のミサを共に捧げました
・織町教会の敷地内にある「ラサール会館」へ移動し、荷物、お布団などを搬入し、夕食
・お風呂、茶話会などを行い、1日目終了

作成者 堀川 莉音

広島への原爆投下は、第二次世界大戦の終盤、1945年8月6日にアメリカ合衆国によって行われた歴史的な事件です。この出来事は戦争の流れを大きく変えると同時に、人類史上初めての核兵器の使用という衝撃的な事実をもたらしました。広島市への原子爆弾投下は、戦争の残酷さや核兵器の破壊力を世界に知らしめるものであり、その影響は今も世界中で語り継がれています。

第二次世界大戦が進行していた1945年、連合国と枢軸国（ドイツ、イタリア、日本など）の間で激しい戦闘が続いていました。ヨーロッパではナチス・ドイツが連合国に降伏しましたが、太平洋戦争の舞台では日本が依然として抵抗を続けていました。アメリカは、日本の本土侵攻による多数の犠牲者を避け、早期終戦を目指すために新たに開発した核兵器の使用を決定しました。

アメリカは「マンハッタン計画」と呼ばれるプロジェクトで原子爆弾の開発に成功し、この新兵器を日本に対して使用することが決定されました。原子爆弾は、広島と長崎という2つの都市に投下されることとなります。

1945年8月6日午前8時15分、アメリカのB-29爆撃機「エノラ・ゲイ」は、広島市の上空で「リトルボーイ」と名付けられたウラン型の原子爆弾を投下しました。爆弾は市内の高度約600メートルで爆発し、直径約1.6キロメートルに及び範囲を瞬時に壊滅させました。爆心地周辺は1,000度を超える高温に達し、建物や人々が一瞬にして焼き尽くされました。爆風と熱線に加え、放射線が広島市全域に広がり、多くの人々が即座に命を落とし、また多くの負傷者が放射線による長期的な健康被害に苦しむことになりました。

原爆投下時の広島市の人口は約35万人と推定されていますが、爆発によって約14万人が1945年末までに亡くなったとされています。多くの犠牲者は、爆発の直後に命を落としましたが、その後も放射線障害、火傷、外傷による死者が続出しました。放射線の影響は深刻で、生存者には急性放射線症や癌、白血病などの病気が次々と発症しました。

広島市全体が破壊され、都市機能が完全に麻痺しました。市内の主要なインフラ、学校、病院、公共施設なども壊滅し、被災者たちは劣悪な環境の中で生活を強いられました。医療体制も崩壊し、負傷者に適切な治療が施されないまま、多くの命が失われました。

原爆の放射線は、爆発後も長期間にわたり広島市の環境と人々に影響を与え続けました。放射線による健康被害は、被爆直後だけでなく、数十年にわたって影響を及ぼし、生存者やその子孫たちに遺伝的影響を残すこととなりました。また、広島市の被爆者たちは、放射線障害に苦しむだけでなく、社会からの偏見や差別にも直面しました。被爆者たちは「原爆症」と呼ばれる病気に悩まされることが多く、精神的・肉体的な苦痛が続きました。

広島への原爆投下は、世界中に衝撃を与えました。核兵器がもたらす破壊力とその非人道的な影響が明白となり、核兵器の使用に対する強い批判が国際的に広がりました。広島と長崎の悲劇を受けて、核兵器禁止の運動が徐々に活発化し、1949年にソビエト連邦が核実験に成功したことをきっかけに冷戦時代の核兵器競争が加速しました。

その後、1960年代に入ると核拡散防止条約（NPT）が提唱され、核兵器の拡散を防ぐための国際的な枠組みが整備され始めました。しかし、核保有国は依然として核兵器を保持しており、核の脅威は現代においても続いています。

広島市は、原爆の被害を乗り越えて驚異的な復興を遂げました。廃墟と化した都市は、多くの人々の努力により再建され、現在では世界的な「平和都市」として知られています。広島市は平和と核廃絶訴えるシンボルとして、毎年8月6日に平和記念式典を開催し、原爆の犠牲者を追悼するとともに、世界に向けて核兵器廃絶のメッセージを発信しています。

また、広島平和記念公園には、原爆ドームや広島平和記念資料館が設けられており、多くの観光客や研究者が訪れ、原爆の悲劇と平和の重要性について学んでいます。原爆ドームは1996年にユネスコの世界遺産に登録され、核兵器の恐怖を後世に伝える重要な遺産となっています。

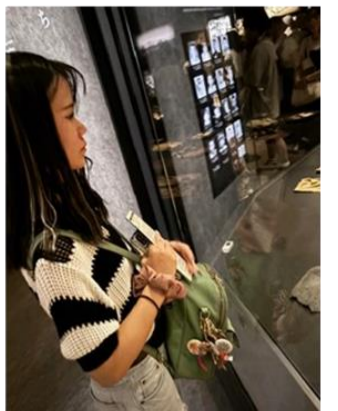
広島への原爆投下は、戦争の悲惨さや核兵器の破壊力を物語る歴史的な事件であり、その影響は広島市民だけでなく、世界中の人々に深い衝撃を与えました。広島市の復興と平和への取り組みは、核兵器廃絶と国際平和の実現を目指す上での重要な教訓となっています。

日本政府や市民団体は、広島と長崎の経験を基に核兵器廃絶を訴え続けており、現在も核の脅威が続く中で、そのメッセージはますます重要性を増しています。広島市の歴史は、平和の尊さと、二度と同じ悲劇を繰り返さないための誓いとして、今後も語り継がれていくと思えます。

今回の平和学習は、私にとって非常に貴重で意義深い経験となりました。広島という地に足を踏み入れ、平和の大切さについて改めて深く考え、学ぶ機会を得たことは、私の人生において大きな意味を持つ出来事でした。広島は、過去に大きな悲劇を経験した場所でありながら、そこから立ち上がり、平和を訴え続ける都市です。原爆ドームや平和記念公園、資料館を訪れることで、戦争の恐ろしさや平和の尊さを強く実感しました。

広島での学びを通じて、私自身の平和に対する意識が大きく変わったと感じています。戦争によって多くの命が失われ、その痛みが今も残っているという現実と直面することで、未来をどう築いていくべきかについて考えさせられました。平和は当たり前のもではなく、多くの人々の努力によって守られ続けていることを忘れてはならないと強く感じました。

もしかすると広島に来ることはもうないかもしれないけれど、そこで学んだことは決して忘れません。広島市の悲劇と平和への願いを心に刻み、その教訓を次の世代にも伝えていきたいと思えました。過去の過ちを繰り返さないために、学び続けることこそが、私たちが未来にできる最大の貢献だと思います。



＝ ○ お知らせ ○ ＝

・10月6日「世界宣教の日」
泉佐野教会にて14時からミサがあります。
5大陸の祈り アフリカ オセアニア ヨーロッパ アメリカ アジア
地域に由来する方々のお話を聞いて、子供たちはロザリオを作って一緒にお祈りをします。
オセアニアの部分でフィリピンとベトナムはミサの時の奉納が違う形をしているので披露してもらおう予定です。皆さんの参加をお待ちしています。

・10月20日「インターナショナルデー」出展にむけて
しゅうてん ちゅうしんみ すすんで
出展の申し込みは済んでいます。9月30日に当選結果がわかります。
ことし きょうせいいいん かたがた おべんとう やさい ほんばい まてい
今年も共生委員の方々がメインで お弁当・カレーパン・野菜・クッキーの販売を予定。

・11月3日いずみブロック合同堅信式があります。
岸和田教会にて11時からミサと堅信式があります、受堅者はブロックで7名
和泉からは2名 タムくん・溝上裕子さんです。お祈りと祝福をお願いします。

そのためミサ時間が次の通り変更になりますご注意ください
いずみ はまでら 9:00～ 岸和田 11:00～ (堅信式)

・11月4日 死者の日のミサを行います
ミサの時間は9:30～です。
納骨堂を利用されている方だけでなく、亡くなられた方のためにともにお祈りをお願いいたします。

10月主日ミサ予定	浜寺 9時30分	和泉 9時30分	岸和田 9時30分
6日(日) 年間第27主日	アンザネロ	ジュアン 評議会	村田
13日(日) 年間第28主日	ジュアン 11:00ポルトガル語イッポリト	イルヴィン	村田 評議会
20日(日) 年間第29主日	村田 評議会	ジュアン	イルヴィン
27日(日) 年間第30主日	村田	イルヴィン	ジュアン 11:00 英語ジュアン

～10月の予定とお知らせ～

※講座「主日のミサの学び」・毎週土曜日14時30分(Sr.ルイザ担当)



- 4日(金)初金ミサ・・・9:30～村田神父
- 6日(日)評議会・・・ミサ後
- 6日(日)世界宣教の日・・・14:00～泉佐野教会
- 20日(日)インターナショナルデー・・・玉造教会
- 26日(土)主日ミサ・・・19:30～ジュアン神父
- 27日(日)birthday会・・・ミサ後10月誕生日の方



10月の典礼 奉仕当番	先唱	朗読	共同祈願	掃除当番 グループ
6日(日) 年間第27主日	小野田 裕	レイシエル 喜山章次郎	ロッチ 渡辺 直彦	A
13日(日) 年間第28主日	西川 保彦	犬塚 泉美 瀬上 和昭	西川 愛日 五来 光政	B
20日(日) 年間第29主日	渡辺 直彦	ラン 五来 光政	中原ミヨ子 瀬上 和昭	C
27日(日) 年間第30主日	五来 光政	古木 弘子 渡辺 直彦	溝上 裕子 小野田 裕	D



GUIDED BY MARY

Luisa Gori, Xaverian Missionary Sisters

Many years ago I met a dear lady, a professor of Japanese literature at university level, who loved Mary, the Mother of Jesus, very much. And this is how she came to the Catholic Church. At the end of the Second World War, her husband was stricken with tuberculosis. When he realised that the situation was worsening, he asked his wife to go and find a Catholic priest because he wanted to receive baptism. The wife did everything she could to fulfil her husband's wish, but found a pastor from the Anglican Church instead. The husband, wife and their five-year-old son, who was named Samuel, received Baptism together. Before his death, the husband left his wife these words: I have only one regret, that of not having been able to deepen my knowledge of Mary, the Mother of Jesus. His wife always kept these words in her heart. Years passed. Work commitments and her son's education took time. And then one day she happened to hear the Hail Mary prayer recited by some children from a Catholic school. It was a unique and unforgettable experience for her. She was especially struck by the last phrase: (Mary), pray for us sinners now and at the hour of our death. She had never heard such a prayer. To ask Mary to be close to us at the hour of death, because that is when we are most alone and need to feel loved, defended and protected. The fact that the prayer was recited by a group of children amazed and moved her deeply. May the Lord, through Mary's intercession, make us too attentive to the signs He gives us to lead us to more faith, more serenity and more peace.



World Day of Mission 2024 Summary of the Pope's Message Part 3

"Go forth and bring whoever you go to the wedding feast" (cf. Matthew 22:9).



- The ministry of Christ's disciples into the world, A purely synodal and missionary church

The third and final consideration is that: It is about those who received the invitation of the king. 「Anyone」 —。 「This "anyone" is the core of mission. Nobody. There are no exceptions Anyone. Therefore, all our ministry is. To draw all people to yourself, It comes from the heart of Christ.」(Pope Francis, "Greetings to the participants of the General Assembly of the Pontifical Mission Project (June 3, 2023)"). In a world plagued by division and conflict, Even today, the gospel of Christ has become a meek and strong voice. People meet, Recognize each other as brothers and sisters, We invite you to rejoice in the harmony of diversity. What God wants is: "That all people may be saved and come to know the truth."(1 Timothy 2:4). ☞ Therefore, in our missionary work, we must never forget that we are sent to preach the gospel to all people. Evangelizing to all requires us to work together. Therefore, we must continue on the path of a single-minded, synodal, missionary church that serves the gospel. Synodality is missionary in it : self, and vice versa, and missions are always synodal. That is why close missionary cooperation is all the more urgent and essential today.

youth Kishiwada Peace Experience Learning in Hiroshima

Author: Yasuhiro Horikawa

For two days from 9/14 (Sat) ~ 9/15 (Sun), we went to Hiroshima at "Youth Kishiwada", which conducts youth activities in the Kishiwada area, and conducted peace experience learning. A total of three people from Izumi Church participated: Mr. Tam, Ms. Rion Horikawa, and Mr. Yasuhiro Horikawa as the leader.

We will post a brief report and impressions as the children feel, so we hope that everyone will read it. September 14

- Depart early in the morning and arrive at Noborityou Church, the cathedral of Hiroshima, after noon
- For lunch, enjoy Hiroshima's okonomiyaki at the nearby "Micchan"
- After lunch, depart from Noborityou Church and walk for about 25 minutes to the Peace Memorial Park
- Visit the Peace Memorial Museum while visiting the Atomic Bomb Dome and monuments
- Return to Noborityou Church and visit Noborityou Church with the guide
- At the small cathedral, we offered the evening mass together with the members of the Noborityou Church
- Move to the "LaSalle Kaikan" on the grounds of Noborityou Church, bring in luggage, futons, etc., and have dinner
- Bath, tea party, etc., and the first day is over.

- September 15
- The girls wake up after 5 a.m. to prepare for everything (early...)
 - Morning prayer together and then breakfast
 - From 8 a.m. to 9:30 a.m., review and share the first day
 - After cleaning and tidying up, move back to the Peace Memorial Park
 - We all prayed for those who died in the Peace Memorial Park.
 - By car, we moved to the Yamato Museum in Kure and had lunch
 - Visit the Yamato Museum and the Iron Whale Museum (Maritime Self-Defense Force facilities)
 - We left for Osaka, and everyone returned home safely



At the shrine of Noborityou Church
(I can't usually take pictures)



Morning Sharing
(Everyone seriously thought about peace)

There were two participants from Vietnam, and Mr. Tam interpreted for us. I'm really grateful. The overnight event that we went to for the first time in a long time was a good opportunity to deepen each other.

youth Kishiwada Peace Experience Learning in Hiroshima Impressions

Created by Le Chi Tam

Through the peace experience in Hiroshima, I was able to think more deeply about the tragedy of war and the importance of peace. On the first day, we ate the famous okonomiyaki in Hiroshima, and then went to the Peace Memorial Park. The first thing I saw was the "Statue of the Children of the Atomic Bomb", and there were many origami cranes around it. I felt that these origami cranes contained the wishes and thoughts of many people for peace.

The next time I saw the Atomic Bomb Dome, I was surprised to see that even the building, which was very sturdy at the time, had been destroyed, even though it was 600 meters away from the hypocenter. I was saddened that the tragic scene still remains. After taking a photo with the dome in the background, we saw the Peace Bell and the Peace Clock Tower.

After that, I went to the Atomic Bomb Museum and saw with my own eyes how much the people suffered at that time. When I saw the charred clothes, the people trying to escape by jumping into the river, and the trails of people who disappeared leaving only shadows, I felt an indescribable misery and my heart became heavy.

After that, I returned to the Memorial Cathedral for World Peace and saw the church's Japanese-Western architecture, pipe organs, bells, doors, and other items sent from overseas, and I felt that the desire for peace is the same in all countries. The design of the church incorporates elements of Buddhism and Japan shrines, and I felt its presence as a symbol of peace that transcends religion and culture.

On the second day, after eating bread in the morning, there was time for sharing, and everyone shared the experience of the first day. We talked about why wars are repeated and what we can do to prevent them. I was only 14 years old, and there were some difficult words while interpreting, but I was relieved that I was able to manage it.

Then, we left the Memorial Cathedral for World Peace and headed to Kure City. For lunch, I ate kure cold noodles at the shopping mall next to the Yamato Museum, and it was a little spicy, but it was very good. In the afternoon, we went to the Yamato Museum and learned about the huge model of the battleship Yamato and its history. There was also an exhibition of Zero fighters and torpedoes, and I was reminded of the enormity of the destructive power of war. Next, we visited the nearby "Iron Whale Museum" to see the inside of the submarine, and when I looked through the periscope, I could actually see the outside scenery, which I thought was amazing.

Through these two days, I was reminded of the meaninglessness and misery of war, and I strongly felt the importance of international cooperation in order to preserve peace. As I saw at the Memorial Cathedral for World Peace, I thought it was important for people all over the world to wish for peace, and for each and every one of us to act responsibly in order to realize peace. I thought that peace starts with small daily actions. I would like to think about what I can do to achieve this and put it into practice in my daily life. This was an important experience for me that I will never forget.



youth Kishiwada Peace Experience Learning in Hiroshima Impressions

Created by Rion Horikawa

The atomic bombing of Hiroshima is a historic event carried out by the United States on August 6, 1945, at the end of World War II. This event changed the course of the war and at the same time brought about the shocking fact of the use of nuclear weapons for the first time in human history. The atomic bombing of Hiroshima made the world aware of the cruelty of war and the destructive power of nuclear weapons, and its effects are still talked about around the world.

In 1945, as World War II was underway, fierce fighting continued between the Allies and the Axis powers (Germany, Italy, Japan, etc.). In Europe, Nazi Germany surrendered to the Allies, but Japan was still resisting in the Pacific theater of war. The United States decided to use newly developed nuclear weapons in order to avoid the large number of casualties caused by the invasion of Japan's mainland and to aim for an early end to the war.

The United States successfully developed an atomic bomb in a project called the "Manhattan Project", and it was decided to use this new weapon against Japan. The atomic bomb would be dropped on two cities, Hiroshima and Nagasaki.

At 8:15 a.m. on August 6, 1945, an American B-29 bomber "Enola Gay" dropped a uranium-type

atomic bomb named "Little Boy" over the city of Hiroshima. The bomb exploded at an altitude of about 600 meters in the city, instantly destroying an area with a diameter of about 1.6 kilometers. The area around the hypocenter reached a high temperature of over 1,000 degrees Celsius. Buildings and people were burned to the ground in an instant. In addition to the blast and heat rays, radiation spread throughout the city of Hiroshima, killing many people instantly and causing long-term health effects from the radiation.

The population of Hiroshima at the time of the atomic bombing is estimated to be about 350,000, but about 140,000 people died in the explosion by the end of 1945. Many of the victims lost their lives in the immediate aftermath of the explosion, but deaths continued to follow due to radiation sickness, burns, and trauma. The effects of radiation were severe, and survivors developed acute radiation sickness, cancer, leukemia, and other diseases one after another.

The entire city of Hiroshima was destroyed, and urban functions were completely paralyzed. The city's main infrastructure, schools, hospitals, and public facilities were also destroyed, and the victims were forced to live in poor conditions. The medical system also collapsed, and many lives were lost without proper treatment for the injured.

The radiation of the atomic bomb continued to affect the environment and people of Hiroshima for a long time after the explosion. The health effects of radiation were not only immediately after the bombing, but also for decades, leaving genetic effects on survivors and their descendants. In addition, the survivors of the atomic bombing of Hiroshima not only suffered from radiation sickness, but also faced prejudice and discrimination from society. A-bomb survivors often suffered from a disease called "A-bomb sickness," which caused them to suffer mental and physical pain.

The atomic bombing of Hiroshima shocked the world. The destructive power of nuclear weapons and their inhumane effects became apparent, and strong criticism of the use of nuclear weapons spread internationally. In the wake of the tragedies of Hiroshima and Nagasaki, the movement to ban nuclear weapons gradually gained momentum, and the successful nuclear test by the Union of Soviet Socialist Republics in 1949 accelerated the nuclear arms race during the Cold War.

Later, in the 1960s, the Nuclear Anti-Proliferation Treaty (NPT) was advocated, and an international framework to prevent the proliferation of nuclear weapons began to be developed. However, the nuclear-armed states still possess nuclear weapons, and the nuclear threat continues in modern times.

The city of Hiroshima has overcome the damage caused by the atomic bomb and achieved an astonishing recovery. The ruined city was rebuilt through the efforts of many people, and now known as the world's "City of Peace," Hiroshima City holds a peace memorial ceremony on August 6 every year as a symbol of peace and appeals for the abolition of nuclear weapons, commemorating the victims of the atomic bombing and sending a message of abolition of nuclear weapons to the world.

In addition, the Hiroshima Peace Memorial Park is home to the Atomic Bomb Dome and the Hiroshima Peace Memorial Museum, where many tourists and researchers visit to learn about the tragedy of the atomic bomb and the importance of peace. The Atomic Bomb Dome was registered as a UNESCO World Heritage Site in 1996 and is an important heritage site that conveys the horrors of nuclear weapons to future generations.

The atomic bombing of Hiroshima was a historic event that illustrated the tragedy of war and the destructive power of nuclear weapons, and its impact had a profound impact not only on the citizens of Hiroshima but also on people around the world. Hiroshima's reconstruction and peace efforts have become important lessons for the abolition of nuclear weapons and the realization of international peace.

Japan's government and civil society groups continue to call for the abolition of nuclear weapons, based on the experiences of Hiroshima and Nagasaki, and that message is becoming increasingly important as the nuclear threat continues. I believe that the history of Hiroshima will continue to be talked about as a pledge to remember the preciousness of peace and to never repeat the same tragedy again

This peace study was a very valuable and meaningful experience for me. Stepping foot in Hiroshima and having the opportunity to think deeply and learn about the importance of peace was a very significant event in my life. Hiroshima is a city that has experienced great tragedies in the past, but has risen from them and continues to advocate for peace. By visiting the Atomic Bomb Dome, the Peace Memorial Park, and the museum, I strongly felt the horror of war and the preciousness of peace.

Through my studies in Hiroshima, I feel that my own awareness of peace has changed significantly. Facing the reality that many lives were lost in the war and that the pain is still there, it made me think about how we should build the future. I strongly felt that we should not forget that peace is not something to be taken for granted, but continues to be preserved through the efforts of many people.

I may never come to Hiroshima again, but I will never forget what I learned there. I wanted to engrave the tragedy of Hiroshima and my wish for peace in my heart, and pass on the lessons I learned to the next generation. In order not to repeat the mistakes of the past, I believe that continuing to learn is the greatest contribution we can make to the future.



- October 6: World Mission Day

There will be a Mass at Izumisano Church at 14 o'clock ~ Mass.

Prayer on 5 Continents: Africa, Oceania, Europe, America, Asia

After listening to the stories of people from the region, the children make a rosary and pray together. In the Oceania part, the Philippines and Vietnam have different forms of offerings at the time of Mass, so we plan to have them show off. We look forward to your participation.

- October 20: Exhibiting at "International Day"

The application for exhibition has already been completed. You will know the results on September 30th.

This year, the members of the symbiosis committee will be the main members of the committee, and we plan to sell bento boxes, curry bread, vegetables, and cookies.

- There will be a joint confirmation ceremony for the Izumi Block on November 3rd.

There will be a mass and confirmation ceremony at Kishiwada Church from 11 o'clock, and there will be 7 people in the block

Two people from Izumi are Tam and Yuko Mizokami. Please pray and bless.

Therefore, please note that the Mass time will be changed as follows

Izumi Hamadera 9:00~ Kishiwada 11:00~ (Confirmation Ceremony)

- November 4: Mass on the Day of the Dead

Mass is from 9:30 a.m.

Please pray not only for those who use the ossuary, but also for those who have passed away.

Mass on Sunday in October	Hamadera 9:30 a.m.	Izumi 9:30 a.m.	Kishiwada 9:30 a.m.
6th(Sun) 27th Sunday of the year	Father Anzanello	Father Juang council	Father Murata
13th(Sun) 28th Sunday of the year	Father Juang 11:00Portuguese Father Hipolito	Father Irvin	Father Murata council
20th(Sun) 29th Sunday of the year	Father Murata council	Father Juang	Father Irvin
27th(Sun) 30th Sunday of the year	Father Murata	Father Irvin	Father Juang 11:00English Juang

~October Schedule and Announcements~

※Lecture "Learning the Sunday Mass" – Every Saturday at 14:30

(in charge of Sr. Louisa)



4th (Fri) First Friday Mass . . . 9:30 ~ Father Murata

6th (Sun) Council . . . After Mass

6th (Sun) World Mission Day . . . 14:00 ~Izumisano Church

20th (Sun) International Day . . . Tamatsukuri Church

26th (Sat) Sunday Mass . . . 19:30 ~ Father Juang

27th (Sun) Birthday Party . . . For those who have a birthday in October after Mass



October Liturgy Service Duty	Sing first	recitation	Communal Prayer	Cleaning duty group
6th(Sun) 27th Sunday of the year	Yutaka Onoda	Rachelle Shojiro Kiyama	Rotch Naohiko Watanabe	A
13th(Sun) 28th Sunday of the year	Yasuhiko Nishikawa	Izumi Inuzuka Kazuaki Segami	Yoshihi Nishikawa Mitsumasa Gorai	B
20th(Sun) 29th Sunday of the year	Naohiko Watanabe	Lan Mitsumasa Gorai	Miyoko Nakahara Kazuaki Segami	C
27th(Sun) 30th Sunday of the year	Mitsumasa Gorai	Hiroko Furuki Naohiko Watanabe	Yuko Mizokami Yutaka Onoda	D

I'm using Google Translate.